

第 3 回 学内セミナー 開催される

1. 日時

2018/2/21 (水) 18:00~19:30

2. 講師：松本 康之 先生

Harvard 医科大学 Beth Israel Deaconess Medical Center(BIDMC)/Harvard Medical School (HMS), General Surgery

3. 演題：

「米国における糖鎖研究の現状及び最近の O 型糖鎖研究の進展」

4. 場所: 中部大学 51 号館 2 階 5122 講義室

5. 参加人数

15 名 (おもに本学の教員、大学院生、一部、学部の学生)

松本康之 先生は、Georgia 州 Emory 大学の Richard Cummings 博士の研究室で数年間、O 型糖鎖の機能解析を展開している。とくに、癌細胞における T 抗原、Tn 抗原などの役割や治療応用につき、意欲的な研究を進め、一年前からは Harvard 大学に移って、挑戦的な研究を展開している。このセミナーでは、「米国における糖鎖研究の現状及び最近の O 型糖鎖研究の進展」というタイトルで、ご自身の抗 Tn 抗体の特異性と癌細胞に対する作用などの研究結果に加え、米国の糖鎖研究の進展状況をお話しいただいた。とくに、“癌免疫治療のブレイクスルー” について、例えば、afucosylated Ab (フコース欠損抗体) が実際どのくらい ADCC を上げるのか、CAR T cell (chimeric antibody receptor T 細胞)の有効性、Bispecific, Trispecific Ab の有用性、などに関して、ホットな情報をご紹介いただき、参加者から強い関心が寄せられた。

年度末近くで学生がほとんど登校していない時期であったが、がん研究に興味のある教員や学部学生が遅くまで熱心に質疑応答を展開した。今後、の抗 Tn 抗体の臨床応用が期待される。